

# 平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」四年 年間指導計画作成資料

## 【構成】

各ページとも表形式で示した。上部に表組みの項目を置いてあるので、それに依ってご覧いただきたい。

## 【凡例】

配 当 月 ……目安としての配当月を示した。

時 数 ……単元・教材ごとの時数を示した。

単 元 ・ 教 材 ……単元名及び教材名を示し、その下に時数の配分を丸数字で示した。  
例（書①読①）…書くこと1時間，読むこと1時間の配分を示す。

■ 学 習 目 標 ……単元及び教材を扱う際に目標とすることを示した。

<学習指導要領との対応> ……該当する学習指導要領の領域・項目・指導事項を示した。

◎印は重点項目

話聞…話すこと・聞くこと

書 ……書くこと

読 ……読むこと

伝国…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

学 習 活 動 ……単元及び教材の主たる学習活動を示した。数字は学習の順序を想定したものにしている。

評 価 規 準 ……教材ごとに該当する学習指導要領の項目に合わせて示した。

【関心】…国語への関心・意欲・態度

【話聞】…話すこと・聞くこと

【書く】…書くこと

【読む】…読むこと

【伝国】…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」四年上巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準		
		<学習指導要領との対応>				
4	1	<p>「春のうた」 (読①) ■様子を思い浮かべながら、感じ取ったことが伝わるように、音読を工夫することができる。</p> <p>◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①音読し、様子を考える。 ②擬音語などの表現効果について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。</p>	<p>【関心】「春のうた」の詩を楽しみながら、音読しようとしている。 【読む】かえるの喜びの様子や自分の共感が伝わるように、音読を工夫している。 【伝国】擬音語・擬態語の表現をとらえている。</p>		
	2	<p>学級作り 「遊びの教えっこ」 (話聞②) ■絵を見ながら、やり方が分かるように順序立てて説明したり、分からないところは説明したりして、伝え合うことができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>			<p>①自分の知っている遊びについて、順序やルールが伝わるように話す。 ②相手が分からないところは、例を挙げたり動作化したりするなどの工夫をして伝える。 ③分からないときは、予想したり友達に聞いたりする。</p>	<p>【関心】様々なボール遊びに関心をもち、その遊び方について話したり聞いたりしようとしている。 【話聞】遊び方が伝わるよう、筋道を立てて説明している。 【話聞】遊び方を理解するために、大事なことに気を付けて聞いたり、分からないところは質問したりしている。 【伝国】順序が分かる言葉や接続語の使い方に気付いている。</p>
	2	<p>みんなで本を楽しもう 「頭にかきの木」 (読②) ■落語の世界のおもしろさを出し合い、他の落語や落ちのある本などを読み聞かせしたり、感想を伝え合ったりすることができる。</p> <p>○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>				

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	7	<p>1. イメージをふくらませて読もう 「白いぼうし」 (読⑦) ■人物の行動などの表現を基に、物語の世界のイメージをふくらませながら読むことができる。</p> <p>○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○読(2)エ：紹介したい本を取り上げて説明すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①場面ごとの人物の行動などを整理し、その理由を考える。 ②色や声・音・においなどの表現から、イメージをふくらませながら読む。 ③物語のイメージを生かしながら、工夫して音読する。</p>	<p>【関心】松井さんや女の子の行動などに関心をもち、物語のイメージをふくらませながら読み進めようとしている。 【読む】松井さんや女の子の行動描写などを基に、場面と人物の様子やその変化を、イメージをふくらませて読み取り音読している。 【読む】「白いぼうし」やほかの作品について、人物の行動とその理由を伝え合い、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 【伝国】色や声・音・においを表す言葉を用いて表現を深める技法に気付いている。</p>
	2	<p>言葉のきまり1 「主語・述語・しゅうしょく語」 (書②) ■主語や述語、修飾語の意味を知り、文の中での働きを理解するとともに、文の構造について理解することができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ◎伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>	<p>①文の構成図を見て、主語や述語、修飾語の働きや関係を理解する。 ②例文について、主語や述語、修飾語をとらえ、文の構造を理解する。 ③構成図に当てはめながら、主語や述語、修飾語の整った文にする。 ④主語・述語・修飾語の関係を整えた文作りをして、適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】文の組み立てに関心をもち、使おうとしている。 【書く】主語・述語・修飾語の関係が整った文になっているか確かめたり直したりしている。 【伝国】主語や述語、修飾語の類別を知り、その働きや関係についてとらえ、適切に使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	1	<p>漢字の部屋 1 「漢字の部首の意味」 (言①) ■部首が共通する漢字には、どんな関係があるかをとらえ、調べることができる</p> <p>○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ◎伝国ウ(ウ)：漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。</p>	<p>①本文を読み、部首が共通する漢字が何に関係するかをとらえる。 ②漢字辞典を使って調べる。</p>	<p>【関心】漢字の部首の意味に関心を持ち、調べようとしている。 【伝国】漢字の部首が持つ意味と、漢字の意味との関係を理解している</p>
5	2	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】適正文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】四年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>
	3	<p>「アメンボはにん者か」を読む前に 「ムササビのひみつ」 (読③) ■筆者の考えと取り上げた事実との関係をとらえながら、「問い」と「答え」を読むことができる。</p> <p>◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①本文を読み、問いの文をとらえる。 ②何のために実験したかを読む。 ③問いに対する答えを読み取り、説明する。 ④筆者が伝えたかったことを読む。</p>	<p>【関心】ムササビが木から木へと飛ぶ仕組みに関心を持ち、なぜそのようにして生きているかを読もうとしている。 【読む】筆者の疑問と行った実験との関係を、問いと答えや要点、段落相互関係から読み取り、文章の中心をとらえている。 【伝国】修飾・被修飾の関係や指示語や接続語の役割をとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	8	<p>2. 要点をたしかめ、筆者の問いに答えよう 「アメンボはにん者か」 (読⑧) ■段落の要点を確かめながら読み、筆者が伝えたいことをとらえることができる。</p> <p>○読(1)ア:内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)イ:目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ◎読(1)エ:目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(1)オ:文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○伝国イ(キ):修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 ○伝国イ(ク):指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①題名について、本文を読む前と読み終わって感じたこととを比べる。 ②意味段落ごとの要点を表にまとめる。 ③何のために実験をしたのか、その役割を考え、説明する。 ④問いの文に対する答えを、自分の言葉を入れて答える。</p>	<p>【関心】アメンボが水面に浮いたり進んだりする仕組みに関心をもち、アメンボのくらしから考えた筆者の伝えたいことを読もうとしている。 【読む】筆者の問いに答えるために、段落ごとの要点と筆者の考えとの関係をとらえながら読んでいる。 【読む】内容の中心を考えながら読んだり、読んで分かったことを自分の言葉で伝えたりしている。 【伝国】修飾・被修飾の関係や指示語や接続語の役割をとらえている。</p>
	2	<p>読むために書く 「要約」 (書①読①) ■要約のしかたやよさを理解し、意味段落ごとに要点を書き出して、要約することができる。</p> <p>◎書(1)イ:文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)エ:文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ◎読(1)エ:目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること ○伝国イ(エ):句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。</p>	<p>①要約の意味やしかたをとらえる。 ②例文を読み、家の人に伝えたいことを中心に、敬体・常体を整えて要約してまとめる。</p>	<p>【関心】要約のしかたとその役立て方に関心をもち、要約文を書こうとしている。 【書く】家の人に伝えたいことの中心を明確にして、敬体・常体を整えた要約文を書いている。 【読む】書いてあることを伝えるために、要点をとらえ、要約している。 【伝国】句読点・段落に注意して書いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	3	<p>言葉のいずみ1 「漢字辞典の使い方」 (言③) ■漢字辞典の構成や使い方, その便利さを理解することがとともに, 漢字辞典を使って, 漢字の意味や読みなどを調べることができる。</p> <p>○伝国ア(イ): 長い間使われてきたことわざや慣用句, 故事成語などの意味を知り, 使うこと。 ◎伝国イ(カ): 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について, 辞書を利用して調べる方法を理解し, 調べる習慣を付けること。</p>	<p>①漢字辞典の仕組みや引き方, その便利さを理解する。 ②漢字辞典を使って, 漢字の意味や読み方など調べる。</p>	<p>【関心】漢字辞典の利用のしかたに関心をもち, 使おうとしている。 【伝国】漢字辞典の仕組みや引き方をとらえ, 適切に漢字の意味や読み方などを調べている。 【伝国】漢字辞典を利用して, 故事成語などの意味を調べている。</p>
	2	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに, 前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ: 文章の間違いを正したり, よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ): 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを, 辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め, 適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか, 確かめたり直したりしている。 【伝国】四年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし, 文中で使っている。</p>
	1	<p>漢字の部屋2 「漢字の部首の名前」 (言①) ■漢字の部首について知り, 漢字の組み立てへの理解を深めることができる。</p> <p>○伝国イ(カ): 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について, 辞書を利用して調べる方法を理解し, 調べる習慣を付けること。 ○伝国イ(オ): 表現したり理解したりするために必要な語句を増し, また, 語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ◎伝国ウ(ウ): 漢字のへん, つくりなどの構成についての知識をもつこと。</p>	<p>①漢字の部首やその名前について知る。 ②漢字辞典を使って調べる。</p>	<p>【関心】漢字の構成部分の名称と部首の名称に関心をもち, 調べようとしている。 【伝国】漢字の部首名を知り, その組み立てをとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	4	<p>書き方・まとめ方 「まとめり（段落）と分かりやすさ」 （書④） ■段落の役割を理解し、自分の文章表現に生かすことができる。</p> <p>◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。</p>	<p>①文章を、声を出して読み、直したいところを明らかにする。 ②一つの文を短くして、書き直す。 ③まとめりに気を付けて、段落に分ける。 ④文を短くしたり、段落を作ったりすることで、分かりやすい文章になることをとらえる。</p>	<p>【関心】分かりやすい文章の書き方に関心を持ち、段落のまとめりに気を付けながら、文章を書こうとしている。 【書く】分かりやすい文章になるよう、文を短くしたり、段落を作ったりしている。 【書く】書き直した文と元の文を、比べたり読み合ったりして確かめている。 【伝国】段落の始めで改行することを理解している。</p>
	8	<p>3. しょう来のゆめを語ろう 「ドリームツリーを作って発表しよう」 （話聞⑧） ■自分の夢がかなうまでの手順を整理してまとめ、分かりやすく説明することができる。</p> <p>◎話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ◎話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ○話聞(2)ア：出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>		

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	2	<p>言葉のきまり2 「言葉のつながりと順じょ」 (言②) ■「は」と「が」の使い分けの違いを理解することができる。</p> <p>◎伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>	<p>①本文を読み、「は」と「が」の違いをとらえる。 ②読みやすい文章にするための省略についてとらえる。 ③例文での「は」と「が」の違いを考える。</p>	<p>【関心】言葉のつながりや順序に対する関心を深め、「は」と「が」を使い分けようとしている。 【伝国】「は」と「が」の使い分けについてとらえている。</p>
	1	<p>漢字の部屋3 「漢字の読み方」 (言①) ■漢字の音読みや訓読み、特別な読み方、送り仮名の付け方について理解することができる。</p> <p>○伝国イ(イ)：漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ◎伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ◎伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p>		
6	<p>書き方・まとめ方 「すじ道を立てて書く」 (書⑥) ■三段構成で、筋道の立った文章を書くことができる。</p> <p>◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ◎書(1)ウ：書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)イ：疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ○伝国ア(イ)：長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①本文を読み、筋道立てて書いてある文章の組み立て方を理解する。 ②例示されたことわざなどを調べ、筋道立てた文章を書いて説明したり報告したりする。 ③筋道の通った文章になっているか、読み合って確かめ合う。</p>	<p>【関心】筋道立てた文章の書き方に関心をもち、組み立てを考えながら書こうとしている。 【書く】文章全体における三段構成や筋道について理解し、調べたことわざなどについて、具体例を入れながら、筋道立てた文章を書いたり読み合ったりしている。 【書く】書いた文章を読み返し、間違いを正している。 【伝国】ことわざの意味を調べている。 【伝国】指示語や接続語の使い方、句読点や段落の付け方を理解している。</p>	



配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	1	<p><b>新しい漢字</b> (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】四年で配当されている漢字を読み書きしている。</p>
	11	<p><b>4. 読書を楽しもう</b> 「ポレポレ」 「み力的な人物をしょうかいしよう」 本と友達 読書の部屋 (読⑧書③) ■登場人物の魅力とそのおもしろさをとらえながら作品を読むとともに、読書を通して出会った魅力的な人物を紹介し合うことができる。 ■本を読み、記録を残すことができる。</p> <p>◎書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ◎書(1)ウ：書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ◎読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○読(2)エ：紹介したい本を取り上げて説明すること。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①場面や人物の様子などを想像しながら、読み進める。 ②感想や読み取ったことを友達と交流し合う。 ③場面や人物の様子などが伝わるように、工夫して音読する。 ④「ポレポレ」に出てくるピーターの魅力をを出し合う。 ⑤「人物紹介カード」の書き方をとらえる。 ⑥本を読み、人物の魅力が伝わるような「人物紹介カード」を書く。 ⑦友達と紹介し合う。 ⑧テーマに沿った本や関心のある本を選んで読み、読書の幅を広げる。 ⑨「読書の足あと」として、カードにまとめる。</p>	<p>【関心】ピーターの人柄と行動を描いた作品のおもしろさに関心をもち、読み進めるとともに、他の作品の作中人物の魅力や書かれている内容のおもしろさに注目して、読書を楽しもうとしている。 【書く】作中人物のことや、読んで興味深かったことなどを、事例や理由を挙げながら「紹介カード」や「読書の足あとカード」に書きまとめている。 【読む】場面の出来事やピーターとその周りの人物の様子などを、叙述を基に読み取っている。 【読む】人物の魅力をとらえるために本を読み、感じたことの交流を通して、友達との読みの違いに気付いている。 【読む】読書を楽しむための様々な視点を立てて読み、おもしろかったところを引用したり、感動したことをまとめたりして、記録に残している。 【伝国】「は」と「が」の違いに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	2	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】四年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>
9	2	<p>詩を味わおう 「はじめて小鳥が飛んだとき」 「ふしぎ」 (読②) ■様子などを想像しながら、工夫して音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①詩の内容や表現のしかたで、おもしろかったところを話し合う。 ②読み方を工夫して音読する。</p>	<p>【関心】内容や短詩形による表現のおもしろさに関心をもちながら、詩を読もうとしている。 【読む】表現されている様子や自分の感じたことが伝わるように音読している。 【伝国】短詩形による独特な表現に気付いている。</p>
	5	<p>言葉から風景を想おうしよう 「百人一首」 「声に出して短歌のリズムを楽しもう」 (言⑤) ■百人一首に親しみ、風景を思い浮かべたり、リズムを感じたりしながら読むことができる。 ■拍のリズムをとらえながら、短歌を読むことができる。</p> <p>◎伝国ア(ア)：易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたること。</p>	<p>①百人一首について知り、五・七・五・七・七のリズムを感じながら音読したり、暗唱したりする。 ②季節や風景などについてとらえる。 ③かるたを読んで、歌われている季節や風景の似ているところについて話し合う。 ④手拍子などでリズムを確かめながら、俳句や短歌を声に出して読む。</p>	<p>【関心】百人一首に関心をもち、言葉のリズムや季節、風景をとらえながら読もうとしている。 【伝国】百人一首に描かれた風景の美しさを思い浮かべ、言葉のリズムをとらえながら、音読したり暗唱したりしている。 【伝国】リズムをとらえながら、短歌を声に出して読んでいる。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	3	<p>自分の見方を持つ 「身の回りのメディアを研究しよう」 (話聞②書①) ■身近なメディアについて、理由や根拠を挙げながら、選ぶ視点について考えることができる。</p> <p>○話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)オ：互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 ○書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①菓子の包装紙や箱などをもち寄り、どれが好きか選んだり、理由を出し合ったりする。 ②それらには、どんな特徴があるかを、示された視点で調べ、発表し合う。 ③示された題材や視点で、表にまとめる。 ④表を基に、どんな点を大切にして菓子や飲み物を選んでいるかを話し合う。</p>	<p>【関心】身の回りのメディアであるお菓子の包装紙や箱などに関心を持ち、それらの特徴や選ぶ視点などについて話し合おうとしている。 【話聞】どんな視点でお菓子を選んでいるか、理由や根拠を挙げながら話し合っている。 【書く】自分が選んだ包装紙や箱について調べ、選んだ理由を明らかにするために、着目点を書きだしている。 【伝国】言葉以外の物でも伝達の働きをもっていることに気付いている。</p>
	5	<p>手紙を書こう 「いらい状とお礼状」 (書⑤) ■伝えたいことを明らかにしながら、書式に合わせ、依頼状や礼状を書くことができる。</p> <p>◎書(1)ウ：書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(2)エ：目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。</p>	<p>①本文を読み、依頼状や礼状とはどのようなものかを知る。 ②依頼状や礼状の書き方を知る。 ③目的意識や相手意識を持ち、書式に合わせて依頼状や礼状を書く。</p>	<p>【関心】依頼状や礼状の形式に対する関心を深めるとともに、手紙文のよさに気付き、その書き方を活用しようとしている。 【書く】相手意識や目的意識を持ち、形式に合わせて相手に失礼のないように敬体の文章で、依頼状や礼状を書いている。 【書く】文章の間違いを正している。 【伝国】相手を尊重する言葉遣いや句読点の打ち方、段落の付け方に注意している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	8	<p>5. 知ろう・伝えよう 「見学したことを報告しよう」 (話聞②書⑥)</p> <p>■見たり聞いたりしてきたことを、 新聞にまとめることができる。 ■聞き方に注意してインタビューを し、必要な事柄についての要点をメ モするなどして、伝えたいことの中心 を明らかにしながら、読み手に分 かりやすく工夫して書くことができ る。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事 例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉 を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強 弱、間の取り方などに注意したりして話すこ と。 ◎話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質 問をしたり感想を述べたりすること。 ○話聞(2)ア：出来事の説明や調査の報告をし たり、それらを聞いて意見を述べたりするこ と。 ○話聞(2)ウ：図表や絵、写真などから読み取 ったことを基に話したり、聞いたりすること。 ◎書(1)ア：関心のあることなどから書くこと を決め、相手や目的に応じて、書く上で必要 な事柄を調べること。 ◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理 解し、自分の考えが明確になるように、段落 相互の関係などに注意して文章を構成するこ と。 ◎書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確に し、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて 書くこと。 ○書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意 しながら書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよ い表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手 の考えの明確さなどについて意見を述べ合う こと。 ○書(2)イ：疑問に思ったことを調べて、報告 する文章を書いたり、学級新聞などに表した りすること。 ○書(2)ウ：収集した資料を効果的に使い、説 明する文章などを書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思っ たことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①何について伝える新聞を 作るか、計画を立てる。 ②聞きたいことを考え、メモ を作って取材する。 ③話を聞きながら、要点をメ モする。 ④必要な情報を選んだり、割 り付けを考えたりして、読み 手を引きつける工夫をしな がら、記事を書く。 ⑤作った新聞を、友達同士読 み合い、よいところを伝え合 う。</p>	<p>【関心】新聞作りに関心をも ち、記事にするために知りた いことを聞いたり、読み手に 分かりやすく伝えるための 工夫をしながら書いたりし ようとしている。 【話聞】適切な言葉遣いでイン タビューをし、大事なこと をメモしている。 【話聞】新聞全体の作り方に ついて気付いたことを出し 合っている。 【書く】インタビューで取材 したことから伝えたい ことを決め、記事をまとめて いる。 【書く】伝えたいことが明確 になるように、記事のまとめ りごとに伝えたいことを焦 点化し、事例を挙げながら分 かりやすくまとめている。 【書く】書きあげた記事や新 聞を読み合い、よりよい表現 になるように工夫したり、気 付いたことを伝え合ったり している。 【伝国】言葉による表現だけ ではない表し方に気付いて いる。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	4	<b>言葉のいずみ2</b> <b>「形が変わる言葉」</b> <b>(書③言①)</b> <b>■動きや様子を表す言葉が、文の形により変化することを理解することができる。</b> ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(イ)：漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ◎伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ○伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。	①本文を読み、文の形によって動きや様子を表す言葉が変化することをとらえる。 ②例示された言葉を、書き換える。 ③適切な形に書き換えたかどうか確かめる。	<b>【関心】</b> 動きや様子を表す言葉に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 <b>【書く】</b> 適切な形に書き換えることができたか確かめたり直したりしている。 <b>【伝国】</b> 動きを表す言葉や様子を表す言葉の性質を理解している。 <b>【伝国】</b> 文の形によって、動きや様子を表す言葉が変化することをとらえ、修飾・被修飾の関係を確かめながら適切に言い換えている。 <b>【伝国】</b> 文の形による語尾の変化に着目し、活用があることに気付いている。
	1	<b>言葉の広場</b> <b>「読み方のたくさんある漢字」</b> <b>(言①)</b> <b>■漢字のパズルをすることで、熟語やその読み方に対する理解を深めることができる。</b> ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①本文を読み、漢字のパズルのやり方をとらえる。 ②漢字のパズルを行い、熟語を考えたり、読み方を書いたりする。	<b>【関心】</b> 熟語や漢字の読み方に関心をもち、楽しみながら漢字のパズルをしようとしている。 <b>【伝国】</b> 漢字を合わせて熟語を作ったり、読み方を書いたりして、知っている語句を増やし、語彙を豊かにしている。
	1	<b>新しい漢字</b> <b>(書①)</b> <b>■学年配当漢字を読み書きすることができる。</b> ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	<b>【関心】</b> 漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 <b>【書く】</b> 適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 <b>【伝国】</b> 四年で配当されている漢字を読み書きしている。

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」四年下巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
-	(9)	<p>◆「だまし絵で分かる脳のしくみ」 ■意味段落の要点をとらえながら読み、事例ごとに整理して脳の仕組みを知ることができる。</p> <p>◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①段落と段落の関係を考え、事例を整理しながら全文を読む。 ②脳の仕組みについて分かったことをまとめる。 ③読んだ感想を出し合う。</p>	<p>【関心】脳の働きに興味をもって読もうとしている。 【読む】事例を整理しながら不思議な出来事が起きるわけを読み取ることができる。 【読む】初めて知ったことに対する感想を出し合っている。 【伝国】指示語や接続語をとらえている。</p>
-	(9)	<p>◆「一つの花」 ■表現に即して、場面の推移、場面の様子、登場人物の心情などを確かに豊に読み取ることができる。 ■登場人物の言動や心情に対して、自分なりの感想を書いたり述べたりすることができる。</p> <p>◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p>	<p>①叙述に基づいて、場面の情景や人物の気持ちの変化を読み取る。 ②感動した場面と、その理由について出し合う。 ③読んだ感想を伝え合う。</p>	<p>【関心】時代背景について知り、当時の様子を想像して読もうとしている。 【読む】場面や人物の様子や気持ちを想像しながら読んでいる。 【読む】感動の理由を挙げて感想をまとめ、伝え合っている。 【伝国】難語句や馴染みのない言葉について、辞書を利用して調べている。</p>
-	-	<p>◆「地いきの図書館を利用しよう」 ■求めている本を探すために、いろいろな方法があることを理解できる。</p> <p>○話聞(1)オ：互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 ○書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ◎読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。</p>	<p>①どんなときに図書館を利用するのかや、複数の図書の利用のしかたを確認する。 ②図書館の案内図を活用したり、パソコン検索をしたり、司書の方にたずねたりする方法を確認する。</p>	<p>【関心】図書館の様子や利用のしかたに関心をもち、日常的に活用しようとしている。 【話聞】どんなときに図書館を利用するのか互いの考えを伝え合っている。 【書く】書くための目的に応じて必要な情報を得るための方法を選んでいる。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	<p>「ぶどう」 (読①) ■音読を工夫し、楽しみながら詩を 読むことができる。</p> <p>◎読(1)ア:内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○伝国イ(ア):言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①音読し、様子を考える。 ②擬人法などの表現効果について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。</p>	<p>【関心】「ぶどう」の詩を楽しみながら、音読しようとしている。 【読む】様子を思い浮かべながら、自分の感じたことが伝わるように音読を工夫している。 【伝国】行末の表現の効果に気付いている。</p>
	2	<p>「さわっておどろく」を読む前に 「『落ち葉』ではなく『落ちえだ』」 (読②) ■筆者が、問いに対してどのように 考え、どんな結論を出したかを読む ことができる。</p> <p>◎読(1)イ:目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○読(1)エ:目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○伝国イ(ク):指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①筆者の問いをとらえる。 ②筆者が実際に確かめて、分かったことをとらえる。 ③事実から、筆者がたどり着いた結論についてとらえる。</p>	<p>【関心】「落ちえだ」に関心をもち、その形と仕組みについて読もうとしている。 【読む】問いや事実、結論の文や部分を注意しながら読んでとらえ、段落相互の関係から筆者の視点をたどりながら読んでいる。 【伝国】指示語や接続語の役割を理解している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	9	<p>1. 自分の考えを深めよう 「さわっておどろく」 (読⑦書②) ■事実と意見とを関係付けながら、筆者のものの見方や考え方を読んで、自分の考えを深めることができる。</p> <p>○書(1)ウ: 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○書(1)カ: 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)イ: 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ◎読(1)イ: 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ◎読(1)エ: 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(1)オ: 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(2)イ: 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ○伝国イ(キ): 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 ○伝国イ(ク): 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①「目で見る場所」や「ユニバーサルミュージアム」「人によるサービス」「『さわる』てんらん会」などの言葉はどんなことか、確かめながら読む。 ②筆者は、どのような事実からどのように考えを深めていったか、その関係を整理しながら読む。 ③「さわっておどろく」とはどんなことか、筆者はそのことを通してどんなことが成り立つと考えているかを読む。 ④筆者の考えに対する自分の考えをもち、話し合う。 ⑤身近にある「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」と言われているものを調べ、その感想や報告を書きまとめる。</p>	<p>【関心】「視覚と触覚」「ユニバーサルデザイン」等に関心をもちながら読み進め、自分の考えをもととしていく。 【書く】身近にある「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」について調べたことを、理由や事例を挙げながら書きまとめて交流している。 【読む】事実と意見とを関連付け、筆者のものの見方や考え方に注意しながら読み、文章から考えたことをグループで伝え合ったり、感想を交流したりしている。 【伝国】文の構成や文と文とのつながりに気付いている。</p>
	1	<p>新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。</p> <p>○書(1)オ: 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ): 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】四年で配当されている漢字を読み書きしている。</p>



配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	2	<p>言葉のきまり 1 「接続語」 (書②) ■接続語の働きを理解し、接続語を適切に使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ◎伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①順接と逆接, その他の接続語の違いを理解する。 ②適切な接続語を使って, 短文を完成させる。 ③接続語に続けて, 文を完成させる。 ④適正文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】接続語に対する関心を深め, 適切に使おうとしている。 【書く】接続語を使って, よりよい文に書き直している。 【伝国】接続語が果たす役割について理解し, 使っている。</p>
11	1	<p>漢字の部屋 1 「熟語①反対の意味の漢字の組み合わせ」 (言①) ■反対の意味の漢字が組み合わせられてできた熟語について理解することができる。</p> <p>○伝国イ(イ)：漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ◎伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について, 辞書を利用して調べる方法を理解し, 調べる習慣を付けること。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み, 反対の意味の漢字が組み合わせられてできた熟語についてとらえる。 ②反対の意味の漢字が組み合わせられた熟語を作る。 ③反対の意味の漢字が組み合わせられた熟語の意味を考える。</p>	<p>【関心】反対の意味の漢字が組み合わせられてできた熟語に対して関心を持ち, 適切に使おうとしている。 【伝国】反対の意味の漢字が組み合わせられてできた熟語について理解し, 熟語を作ったり, 意味を考えたりしている。 【伝国】仮名交じりの文から熟語が作り出せることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	9	<p>2. 問題を解決するために話し合おう 「自分の安全は、自分で守ろう」 (話聞⑧書①) ■課題を設定し、その課題解決するために話し合う活動を通して、よりよい考え方と話し合いのしかたを身に付けることができる。</p> <p>◎話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ○話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ◎話聞(1)オ：互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)ア：：出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 ○話聞(2)イ：：学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①通学路の安全について調査し、危険な場所を出し合う。 ②安全について話し合う。 ③安全に登下校するためにアイデアを発表し合う。 ④まとめたことを、他のクラスや学年に伝える。 ⑤学習を振り返る。</p>	<p>【関心】身近な問題を解決するための話し合い活動に関心をもち、自分の意見をもちながら、話し合いに参加しようとしている。 【話聞】身の回りにある具体的な課題を見つけ、フィールドワークを通して、調べたことをメモに書いている。 【話聞】目的をもって解決するための方向性を、理由や事例などを挙げながら話し合い、確かめている。 【話聞】互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合っている。 【話聞】自分の話したことが伝わるように注意して話したり、質問し合っって友達のアイデアを取り入れたりしている。 【書く】学習活動を振り返り、どんな課題についてどのように考えて解決したかを、書きまとめて伝え合っている。 【伝国】接続語の働きを理解し使っている。</p>
	2	<p>言葉のいずみ1 「ことわざ・故事成語・四字熟語」 (書②) ■ことわざや故事成語、四字熟語について理解し、言葉の由来や語感に対するとらえ方を豊かにすることができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ア(イ)：長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。</p>	<p>①本文を読み、ことわざの意味や種類などをとらえる。 ②ことわざの意味を辞典で調べ、カードを作る。 ③本文を読み、故事成語や四字熟語についてとらえる。 ④故事成語の意味や成り立ちを調べたり、会話文を作ったりする。</p>	<p>【関心】ことわざや故事成語、四字熟語に関心をもち、辞典を使って調べたり、適切に使ったりしようとしている。 【書く】故事成語を使った会話文を作り、よりよい表現にしている。 【伝国】ことわざや故事成語、四字熟語について理解し、適切に使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	1	漢字の部屋2 「熟語②にた意味の漢字の組み合わせ」 (言①) ■似た意味の漢字が組み合わさってできた熟語について理解することができる。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。	①本文を読み、似た意味の漢字が組み合わさってできた熟語についてとらえる。 ②似たような意味の漢字でも、少し違うことをとらえ、その違いを辞典などで調べる。 ③二字以上の漢字が並び立ってできた熟語について、それぞれの字の意味の関係をとらえる。	【関心】似た意味の漢字が組み合わさってできた熟語に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【伝国】似た意味の漢字が組み合わさってできた熟語について理解し、熟語を作ったり意味を調べたりしている。
	4	詩を書こう 「心に残っていること」 (書④) ■心に残ったことや感じたことを、作文や日記から見付けて詩に書くことができる。 ○書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ○書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)ア：身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①例示された詩と文章とを比べ、その表現のしかたの違いをとらえる。 ②作文や日記を基に、詩を書く。 ③書いた詩を友達と読み合って、感想を伝え合う。	【関心】心に残ったことや感じたことを基に、詩を書こうとしている。 【書く】心に残ったことや感じたことから書くことを決め、場面や情景を表す表現を工夫して詩に表している。 【書く】書いた詩を読み合い、そのよさなどを交流し合っている。 【書く】文章を常体から敬体に書き換えたときの、受け取り方の違いに気付いている。 【伝国】言い切りの形などの詩的な表現に気付いている。
	2	新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正文になっているか確かめる。	【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】四年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	12	<p>3. 物語の書かれ方を話し合おう 「ごんぎつね」 (読⑫)</p> <p>■叙述を基に、人物の心情を想像したり、その変化をとらえたりしながら、その因果関係を読むことができる。</p> <p>○読(1)ア:内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ:場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)エ:目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ◎読(1)オ:文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(2)ア:物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ):表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p>	<p>①兵十に対するごんの心情が、どこでどのように変わったかをとらえる。 ②最後の場面で、ごんと兵十のそれぞれの心情を、叙述に即して読む。 ③最後の一文があるのとないのとは、どう違うかなど、物語がどのように書かれているかについて話し合う。</p>	<p>【関心】叙述を基に、ごんと兵十の心情の変化や「ごんぎつね」の物語の書かれ方に関心をもち、物語を読み進めようとしている。 【読む】ごんと兵十の心情やその変化を、叙述を基に読んでいる。 【読む】「ごんぎつね」の書かれ方に注目し、表現のしかたについて感じたことを出し合い、また比べ合っている。 【読む】ごんと兵十の心情や様子が分かるように音読したり、文章の表現から細かい点に注意して読んだりしている。 【伝国】言葉による表現の効果に気付くとともに、理解したり表現したりする語句についての知識を増している。</p>
	2	<p>読書を広げよう 「生活の中に生きている読書」 (読⑫)</p> <p>■読みたい本の選び方や読書することのよさを理解し、自分の読書活動に生かすことができる。</p> <p>○読(1)イ:目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ◎読(1)カ:目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)オ:必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</p>	<p>①本文を読み、本を選ぶ手助けとなる方法をとらえる。 ②本文と読み、読書することの意味やよさを考える。 ③これからどんな本を読みたいかを、友達と交流し合う。</p>	<p>【関心】本の選び方や読書することのよさへの関心を高め、自分の読書活動に生かそうとしている。 【読む】これからどんな本が読みたいかを、理由を挙げながら、友達と交流し合っている。 【読む】自分の読書生活に生かすために、本の選び方や読書することのよさを考えている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	1	本と友達 読書の部屋 (読①) ■読書を楽しむことができる。 ◎読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	①本文を読み、紹介された本のお薦めのところをとらえる。 ②読書を楽しむ。	【関心】読書に関心をもち、本を読み進めようとしている。 【読む】紹介された本のお薦めのところをとらえている。
	10	4. 話を作り上げよう 「これであなたも作家になれる」 (書⑩) ■起承転結の構造や、物語の展開と接続語との関係を理解し、簡単な物語を書くことができる。 ◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)ア：身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ◎伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	①四コマ漫画から話の展開を考え、簡単な物語を書く。 ②書いた話の展開を見直し、起承転結と接続語との関係をとらえる。 ③漫画の「落ち」としての結の役割を理解するとともに、主題や題名とのつながりを考える。 ④漫画を基に、起承転結を意識しながら物語を書き、友達と読み合う。 ⑤できあがった物語を読み合い、よいところなどを伝え合う。	【関心】四コマ漫画のでき方を通して物語作りに関心をもち、創作活動に取り組もうとしている。 【書く】起承転結の役割とその相互の関係をとりえて、物語を作っている。 【書く】読み返したり読み合ったりして、よりよい表現に書き換えている。 【書く】心に残った表現や書き方のよさを伝え合っている。 【伝国】接続語の働きをとらえ、表現に生かしている。 【伝国】句読点・段落・会話の部分などに気を付けて書いている。
1	3	言葉で伝えよう 「言葉のいろいろな表じょう」 (話聞③) ■同じ言葉でも、言い方によって伝わり方が違うことをとらえ、よりよい言い方を考えることができる。 ○話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①本文を読み、言葉が使われるときには、話し手の思いや気持ちが伝わることに気付く。 ②同じ言葉を、様々な言い方で表現することで、感じたことや分かったことを出し合い、伝わる相手にとって適切かを考える。	【関心】言葉の言い方や伝わり方に関心をもち、適切に使おうとしている。 【話聞】会話やせりふをいろいろな言い方で言うことで、よりよい伝え方について考えている。 【話聞】適切な言葉遣いで話し、言い方の違いにより伝わるものが変化することに気付いている。 【伝国】言葉には、人をうれしい気持ちや悲しい気持ちにさせる働きがあることを理解している。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	2	<p><b>言葉のきまり2</b> 「そうだ・そうだ」 (書②) ■伝聞と推量との違いを理解し、事例を探して確かめることができる。</p> <p>○書(1)イ:文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)ウ:書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○伝国イ(ウ):送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ◎伝国イ(オ):表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ○伝国イ(キ):修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>	<p>①例文を読み、文末表現「そうだ」による意味の違いをとらえる。 ②「そうだ」と対になる言葉を選び、敬体にしたり常体にしたりしながら文を完成させる。 ③適正文になっているか確かめる。 ④教科書や本の中から、「そうだ」を探し、その意味を考える。</p>	<p>【関心】文末表現「そうだ」による意味の違いに関心を持ち、適切に使おうとしている。 【書く】修飾・被修飾を確かめたり、適正文になっているか確かめて直したりしている。 【伝国】文末表現「そうだ」で表す意味の違いをとらえて、伝聞か推量かを確かめている。 【伝国】形容詞の活用に気付いている。</p>
	1	<p><b>漢字の部屋3</b> 「熟語③—同じ読み方の熟語」 (言①) ■同音異義の熟語についての理解を深め、適切に使うことができる。</p> <p>○伝国イ(イ):漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ◎伝国イ(カ):表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p>	<p>①本文を読み、同じ漢字を使った熟語でも、その意味の違いをとらえて使い分けることの大切さを理解する。 ②同音異義の熟語を言い換えたり意味を辞典で調べたりし、意味を考えて熟語を完成させたり、正しく漢字で書いたりする。</p>	<p>【関心】同じ読み方の漢字について関心を持ち、調べたり、使い分けたりしようとしている。 【伝国】同音異義の熟語についての理解を深め、適切に使っている。 【伝国】熟語の中には、仮名交じりの文に言い換えることができるものがあることに気付いている。</p>
	2	<p><b>新しい漢字</b> 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ:文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ):学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】四年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	12	<p>5. 文化のちがいをまとめよう 「手で食べる，はしで食べる」 (読⑩書②)</p> <p>■要点を整理して事例を比べることで意味段落をとらえ，筆者の考え方に対する自分の考えをもつことができる。</p> <p>○書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。</p> <p>○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。</p> <p>○書(1)カ：書いたものを発表し合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。</p> <p>◎読(1)イ：目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。</p> <p>◎読(1)エ：目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>○読(2)ウ：記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。</p> <p>○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し，使うこと。</p>	<p>①要点を整理して，段落分けをする。</p> <p>②「中」の段落には，どんな事例があるかをとらえ，それらを比べる。</p> <p>③筆者の考えに対する自分の考えをまとめ，友達と交流し合う。</p> <p>④大きなまとまりのつながりを，図に表すことができる。</p>	<p>【関心】手で食べたりはしで食べたりする文化の違いに関心をもって読み，これらの文化の違いについて，自分の感想や考えをまとめようとしている。</p> <p>【書く】筆者の考えに対する感想や考えを，事例や理由を挙げながら構成を考え，書きまとめ，読み合っている。</p> <p>【読む】段落のまとまりごとに要点を整理して読み，書かれている事例を比べながらそれぞれの文化の違いに対する筆者の考えを読んだり，文章を読んで考えたことを伝え合ったりしている。</p> <p>【読む】書きまとめたものを読み合い，感想を伝え合う。</p> <p>【伝国】指示語や接続語の果たす役割を理解している。</p>
2		<p>言葉で遊ぼう 「なぜなぜを楽しもう」 (言①書①)</p> <p>■詩や言葉遊びを通して，語句の響きや語感を楽しむことができる。</p> <p>○書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め，相手や目的に応じて，書く上で必要な事柄を調べること。</p> <p>○伝国イ(ア)：言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p> <p>○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し，また，語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p> <p>◎伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について，辞書を利用して調べる方法を理解し，調べる習慣を付けること。</p>	<p>①問いをもちながら詩を読むことで，詩のおもしろさをとらえる。</p> <p>②「なぜなぜ」をすることで，言葉遊びを楽しむ。</p>	<p>【関心】詩のおもしろさや言葉遊びに関心をもち，楽しみながら学習しようとしている。</p> <p>【書く】なぜなぜを出すために必要な言葉や表現を調べたり考えたりし，メモに書いている。</p> <p>【伝国】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら，表現するための語句を理解したり調べたりして，なぜなぜを出し合っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	8	<p>6. 絵から読み取ったことを伝えよう 「ミニギャラリーの解説委員になろう」 (話聞④書④) ■絵から読み取ったことを、理由や具体例を挙げながら、伝え合うことができる。</p> <p>◎話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ○話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ○話聞(1)オ：互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 ○書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ◎書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)イ：疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①絵から感じたことを、自由に出し合う。 ②理由をはっきりとさせて、解説文を書く。 ③二つの解説文を合わせる。 ④解説委員になって、絵を解説する。 ⑤解説を振り返って、話し合う。</p>	<p>【関心】絵から様々なことを読み取り、感じたことに関心をもち、絵を解説する文章を書いたり、口頭で解説したりしようとしている。 【話聞】絵から感じたことをカードに書き、感じたことの原因や具体例を挙げながら、適切な言葉遣いで聞く人が分かりやすくなるように気を付けて解説し、それを振り返って話し合っている。 【話聞】他の人の解説を聞き、共通点や相違点などを含め、分かったことや気付いたことを伝え合っている。 【書く】絵から読み取ったことを箇条書きにし、それを伝えるために、その理由を明らかにして、敬体を用いた解説文にまとめている。 【書く】書いた解説文を読み合い、解釈の明確さについて意見を交換し、確かめ合っている。 【書く】ペアになった相手の解説文と自分の解説文を合わせ、それぞれの見方が明らかになるように文章を構成している。 【伝国】視覚的に構成されたものを、言葉に置き換えて表現できることに気付いている。 【伝国】接続語の使い方、句読点の付け方、段落の付け方をとらえている。</p>



配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	2	<p>言葉のいずみ2 「言葉の意味をくらべる」 (言②) ■類義語についての知識をもち、言葉の意味や語感に対してのとらえ方を豊かにすることができる。</p> <p>◎伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p>	<p>①本文を読み、類義語について知る。 ②国語辞典で言葉の意味を調べる。 ③身の回りにある類義語を調べる。</p>	<p>【関心】類義語に対する関心をもち、調べたりまとめたりしようとしている。 【伝国】辞典を利用して言葉の意味やその使い方を調べ、言葉の使い方や感覚などに意識を向けている。</p>
	6	<p>7. 表現のくふうを見つけよう 「世界でいちばんやかましい音」 (読⑥) ■物語の構成・展開・表現の工夫を見付けながら、物語を読み進めることができる。</p> <p>○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ◎読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p>	<p>①全文を読み、どの辺りで結末を予想したかを出し合う。 ②物語の展開について、視点に沿って読む。 ③物語を、設定・展開・山場・結末の四つのまとまりに分ける。 ④物語の構成や展開、書き方に関わるような表現の工夫について話し合う。 ⑤他の作品について、物語の構成や展開、書き方に関わるような表現の工夫をとらえながら読み進める。</p>	<p>【関心】物語の表現の工夫に関心をもち、読み進めようとしている。 【読む】場面の移り変わりに注意しながら読み、物語の結末を予想したり、構成や展開などの表現の工夫をとらえたりして、考えたことを発表し合っている。 【読む】地の文から語り手の語り方や繰り返される言い回し、オノマトペなどに注意しながら音読している。 【伝国】類義語の使い方の違いに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	2	<b>新しい漢字</b> <b>言葉をつないで文を作ろう</b> <b>(書②)</b> <b>■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</b> ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	<b>【関心】</b> 漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 <b>【書く】</b> 適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 <b>【伝国】</b> 三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。
	2	<b>これからのあなたへ</b> <b>「ぼくがここに」</b> <b>(読②)</b> <b>■作者の思いを想像しながら音読することができる。</b> ◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①表現から読んだ作者の思いを想像して話し合う。 ②内容を味わいながら音読する。	<b>【関心】</b> 作者の思いを想像し、自分の考えをもちながら読もうとしている。 <b>【読む】</b> 自分の思いや考えが伝わるように音読している。 <b>【伝国】</b> 対比や倒置の表現に気付いている。
-	(9)	<b>◆「りんご畑の九月」</b> <b>■場面の移り変わりや、人物の性格や気持ちの変化を読み取ることができる。</b> <b>■情景に注目して音読することができる。</b> ○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。	①全文を読み、情景の美しさや登場人物の性格などに気付いたことを発表し合う。 ②気に入った表現や場面を選んで音読する。	<b>【関心】</b> 収穫の時期を控えたりりんご畑の様子とぼく・お兄ちゃんの行動を考えながら読もうとしている。 <b>【読む】</b> 場面の移り変わる様子がよく分かるように音読している。 <b>【読む】</b> 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像しながら読んでいる。 <b>【伝国】</b> 辞書を利用して言葉を調べている。

※215時間中、201時間を各単元に配当。残る14時間は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」など、必要に応じて補充するよう計画。

【配当時数】

領域	話聞	書	読	伝国	合計
時数	29	76	75	21	201